

福島浜通り研修発表

大熊E班

この浜通り研修で
たくさんのことを見聞きし、
議論し、
考えることが出来ました

「福島現状を誰にどんなことをどのように伝えるか」という問いに対しては、

私たちの班の中でも

様々な視点からの様々な考え方が出ました。

まずは研修最終日の議論の様子をご覧ください。



数値の信頼性によって対応を変える

- ・ 不特定多数に説明するのであれば、
相手の**数値への理解**や**知識レベル**に合わせる

例：中学生までの年齢層、高齢者など

→ 値を明示するのではなく、**比較中心**で説明する

高校生以上

→ **数値を明示**して説明してもよい

Q1. 誰に

福島での被ばくについて不安を持っている人・否定的に考えている人

Q2. どんな経験を伝えたいか

大熊町の空間線量が基準値以下であったこと
原子力発電所の見学が安全な線量であったこと

伝え方

数字はできるだけ使わずに**比較**をする

数字を使うと…

- ・ 基準値の設定に対する不信感
- ・ 数字の意味が理解できないことによる勘違い・疑念

⇒不安を持っている人にさらに不安をあおる

福島県以外に住んでいる人に福島の実況（原発や帰還困難区域、福島県全体など）

→福島はまだ放射線があって危ないんじゃないか。

伝える方法

- 年齢に応じて比較で補いつつ数値を伝えて福島への安全性や信頼を得られるようにする。
- 比較だけするとイメージはつきやすいが実際との差が生まれてしまう（歯のレントゲン2回と同じだけど瞬間的な物であって。。。）ため正確な数値を伝えていくことが必要だと考えた。

絶対的な数値
化学的な事実



結びつける！！

安心の感覚



“安全”を体感してもらうアプローチをしていきたい

- 福島に足を運んでももらう
- 自分の体験談を共有する
- 確率的な事象と比較する 等

ご清聴ありがとうございました

